京都社会人大学校

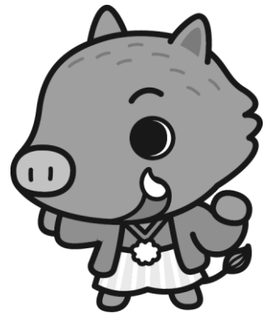
北近畿校 通信

第 12 号　2019 年 1 月
北近畿校運営委員会
事務局発行

2019年

あけましておめでとうございます。

新しいこと、新しい人に出会う
北近畿校で
今年も楽しく学びましょう!



２０１８年度の全講座が終了。一つのことに継続して取り組むというのは、口で言うよりもなかなかに大変なことです。１か月に１回とはいえ、大人には様々な事情が発生するわけで、そんなこんなを乗り越えて通い続けてこられた受講生のみなさんに敬意を表します。

最後の講座の感想用紙には、１年間(８か月)通しての思いを書いていただいた方がたくさんありました。「こんな小さな用紙には書けませんｯ」と、長文のＦＡＸもいただきました。いずれも、ご尽力いただいた講師の方々への感謝がつづられており、みなさまの思いはすべて講師の方々へお届けします。ありがとうございました。

２０１９年度は６講座に増やして開講します。引き続き受講していただき、充実した受講生ライフ！？を楽しんでいただきたいと思います。

2019年度の講座案内を同封させていただいています。

新年度の講座案内は２部お届けしています。これは、あなたの分と、「誰か新しい方を、お一人誘ってくださいませんか」というお誘い用の分です。どうかご活用いただき、この北近畿校の安定的運営にもご協力いただけたら幸いです。

第８回 自然科学講座 ―
「人口知能（ＡＩ）によって 大変革する社会における植物科学の挑戦」

12 月 20 日／講師：蔡晃植氏

人間とチンパンジーの遺伝子の差は１％でしかない。人間と人間とでは0.1%の差だということです。0.1%の差でしかないのに、どうして人間には能力に大きな差があるのでしょうか。この 0.1%というのは宇宙空間くらいの幅があるのでしょうか。こう思いながら聞き入りました。

種の改良は近縁種でしかできなくて、親が持っていない質は子にもできない、ということですが、これを超えられたのは遺伝子組み換えによって可能になってきたということです。医療での応用においては、難病患者にとって待たれている研究です。ただ、日本は組み換え研究では最先端をいっていましたが、今では欧米に特許をもっていかれているのが現状だということです。

近年、新しい遺伝子組み換え法として、ゲノム編集と呼ばれる研究がなされており、マンモス復活計画などもあります。更に人口知能（ＡＩ）を使って生物の進化などに応用されつつあります。

ＡＩは、入力するデータによって結果はかなり違ってきます。一例として挙げられたのは、がん患者、心筋梗塞を起こした95%の人はこの食品を食べていたことが判明した。この様に危険な食品を禁止すべきか。この食品とは、米のことであり、ＡＩは人類にとって便利になる面もありますが、与えるデータによって恐ろしい結果を生むことになることもある、と語られました。講義後の複数の方からの質問もこの懸念のことでした。人間の英知も求められているのだと思いました。

ＳＦを超えるようなお話で、頭の中がパニックを起こしかけてしまいました。ＡＩが戦争に使われることのないように、あるいはまた、ジョージ・オーウェルの Animal Farm の世界が再現されることはないかと、楽観的な未来図よりは、悲観的未来図が頭をよぎります。劇変する最先端科学技術、そして人間の未来は？？？

本来は時事講座受講なのですが、初めて科学講座を受けました。元々理系生物を勉強したものなので、大変興味がありました。私の勉強した生物学も多く、進歩に拍手です。後半の AI の話も驚くことばかり、マフィアが AI に染まらないことを祈ります。

AI は便利だけれどおそろしい。あまりにスゴクてびっくり、質問もできない。

事務局から御礼

１年目の途中から発行を始めたこの「北近畿校」通信。

最初は、講座を休まれた方に内容をお知らせしたい、ということから始まりました。今は少しづつでも、運営委員会と受講生の交流的な紙面にしたいと、改善中です(なかなか進歩しませんが…)。

講座のまとめも、文字数を制限するとなかなか難しく大変。しかも熱が入ってくると段々と長文になり、ひとこと感想もできるだけたくさん紹介したいなあ…という思いもあって、紙面が「字」だらけになってしまいがち。読み辛くて申し訳ありません。

感想や意見もたくさん書いていただけるようになりました。試しに取り入れてみた「ＦＡＸで感想」も結構ご利用いただいています。

みなさんの声を届けていただき、本当にありがとうございました。運営委員会では皆様のご協力に感謝し、出された疑問や改善の要望にはできるだけ応え、今すぐに対応できない場合も協議を継続するなど、引き続き努力していきます。

２０１９年度も、この通信を発行することにしています。引き続きご愛読？の程、よろしくお願いいたします。

引き続き、まだまだ、ず～っと
新 運営委員さん 募集中!

12月の各講座の概要と、ひとこと感想から（感想は一部を抜粋したものもあります ご了承ください）

第８回 時事問題講座 ―
福井原発群の避難計画はどうなっているのか

１２月４日／講師：池田豊氏

原発をつくるのは国の責任で、原子力災害には国が責任を持たない中身が、他国や先進的なところとの比較やデータ、分析などの解説によりとてもよく分かった。専門性を持ったスタッフや研修のない地方自治体に責任を転嫁する仕組みや、福島原発事故を隠ぺいし検証責任を果たさない政府の政策では、全く国民･住民は守られない。

東日本大震災規模の事故が起きた場合、避難は無理だろうと思う。車を使うしかないがたぶん道路は寸断され遠くへはいけないだろうと思う。夜であれば尚更。今回の話しでいろいろな不備が分かった。対策は個人でしかないような。昔から庶民を大切にしない国だし。

冒頭、東日本大震災、津波、原発爆発の映像を見せてもらい、その悲惨さを思い起こしました。日本は、欧米と違い、地震頻発国土に設置され、その中でも若狭は世界最大の原発密集地。その上で改めて、3.11 の福島原発事故を、①事故の進行、②政府の対応や発表、③自治体の対応、を同時系列で見ていくと、原発の「電源喪失」から政府の「緊急事態宣言」さらに「住民避難」まで大きなタイムラグがあり、また、住民を安心させるための情報操作があったこと、複数原発の連続事故や地震による道路の寸断などが重なり合った非常に困難な避難となることが明らかになりました。さらに、なぜ避難計画が原子力規制の対象ではなく、また、自治体の責任で避難計画を立てなければならないのか、実効性のない評価や審査になっているなかで新潟県の３つの検証、①福島原発事故の徹底検証、②健康と生活に及ぼす影響の検証、③安全な避難方法の検証を、京都でも生かすことが大事であることを学びました。

第８回 美術鑑賞講座 ―
現代の美術（2） アートという表現世界

12 月 10 日／講師：真鍋宗平氏

真鍋先生のお陰で美術鑑賞のようやく入り口に立てたような気がします。西洋であれ、東洋美術であれ、美術の世界は奥が深く、今でなくともいづれは自分で創作できる事を夢見て、今はひたすら目の保養、目で学習できる様今後も続けていきたいと思います。アートの前では常に虚心で、心で感じとれるよう教えて頂いたことを忘れずにいたいと思います。

現代美術の後編は「アートという表現世界」と題しての講義でした。戦争による抑圧と貧困からの解放を経験した現代美術は、前衛美術→抽象美術→アートというふうに経過したとのこと。それは、戦争体験を素直に対象化するものから戦後の解放感の中で、尖がった試みを続けるものまで、多様性を広げる。この時代は、ヨーロッパ的名伝統を残しながら前衛美術と呼ばれ、抽象化がすすむ。やがて音楽や映画との複合化、広告と大量生産による商業化が進み、舞台はアメリカに移る。美術の「パワー」が落ち、「アート」と呼ばれるようになる。このような流れを現代美術の展開としてお聞かせいただきました。

今年度は、歴史講座と美術講座で、同じ講師による継続的な講義でした。そしてそのいずれもが、対象作者の作品に向き合い、彼らの矛盾や葛藤を共有しながらの進行でした。文学にせよ、美術にせよ、こうした文化の歴史は、西洋美術も日本美術も作品として残っており、それを掘り起こすことによって、現在の美術として再生し、生き続けるのではないでしょうか。

現代美術は？？？の世界で、私には理解不能な事ばかりです。何を訴えているのかわからない…

第８回 歴史講座 ―
石川啄木 「時代閉塞の現状」

12 月 12 日／講師：井口和起氏

歴史が肉太に学べる講座であり、感謝します。

講師の井口校長先生には全 8 回を担当して頂きました。いつも「今、会議が終わったところだ」と言って、定刻寸前に入ってこられるほどお忙しい中、ありがとうございました。森鴎外や石川啄木を取り上げた講座などは、哲学の講座だったのかな、と思うほど難しいところもありました。しかしながら、受講生のみなさんは理解力が高いとふまれた井口先生は、あえてこのようなテーマで臨まれたのではないかと、勝手な推察をしています。

全日程を終えて ―
基礎的な明治を中心とする時代の知識が自分になく、講義は難しかった。（文学は特に）いろいろな機会を得て勉強したい。

明治という時代をどう見るかは、最終的には受講生のみなさんの判断になりますが、少なくとも通史ではなく違った面、二面性があることも学ぶことができたのではないでしょうか。おかげで「ボーッと生きてんじゃねぇーよ」は免れると思います。最終回に石川啄木を持ってこられたのも、彼の主張は今日に通じること（時代閉塞の現状）を言っているので、取り上げられたのではないでしょうか。

石川啄木の「一握の砂」しか知らず、今日の講座で、明治～今日、啄木の言う時代考察が現在の状況にあまりにも似ていてびっくりしました。国家と確執は私自身に問われているようだ。

講座で扱った啄木の論文の中で、今後、我々が進むべき方向として「必要」と「批評」という 2 つのキーワードが示されていると、井口先生は述べられていましたが、これは私たちがこれからも物事に対する感性を磨いていかなければならないことを願い、指摘されたのではないでしょうか。その意味で、学んでいくことは意義があると感じました。

来期も皆様のご参加をお待ちしています。

あちこち痛くてこれではいけない、もっと健康になりたいと思い、この講座を受けました。家では３種類の体操しかできませんでした。今日改めて教えていただくと、正しいやり方がわかってきました。家でちゃんとやることが課題です。後半のストレッチは何種類か家でやっていました。これは続けられそうです。ありがとうございました。

筋肉運動とストレッチをして心地よい汗をかくことができました。習慣化しにくい現実ですが、年も変わることから気持ちをいれかえて取り組んでいきたいと思います。

第８回 健康講座 ―
毎日行う自宅での筋トレとストレッチ

12 月 21 日／講師：高山覚氏

筋肉トレーニングのポイントは、呼吸を止めないこと。一つの動作をゆっくり時間をかけてやること。一つの動作で一回緩めてやると、同じ動作がやりやすくて、一回目よりしっかりできる。などを教えていただき、いざ実践。

高山先生は、とてもほめ上手です。「さあ、どんどん練習してください。あ、いいですねえ。その調子です！」と一通り見まわした後、「では、本番です。１０回やりましょうか！」となります。「え～っ」と言いながらなんとか１０回終わると、「練習の時はちょっと難しいのかな…と思いましたけど、みなさんとてもしっかりしゃがめていましたね」とか言ってまたちょっとほめて、次のやる気を出させてくれます。

ストレッチもしかり、あっと言う間の２時間でした。「この講座だけで健康になるということは難しいけれど、この講座をきっかけに健康に気を配って頂けたら嬉しい」とおっしゃっていました。